

○4番（小川務君）

それでは私の方から、9月定例会の一般質問を1点させていただきたいと思います。

本日は、子どもたちが天候に左右されず、安心して遊べる室内遊び場についてお伺いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

気象庁によると今年の夏は、平均気温が平年を2.36度上回り、1898年統計開始以降で最高になったと発表がありました。長期的に見れば、今後も極端に暑い夏が増える可能性が高いと予想されているそうです。

現在町内には、子どもたちと子育てるお母さんたちの交流施設として、土庄こども園子育て支援室、ぴよぴよルームがあります。

町内の0歳から3歳までの未就園のお子さんに遊びの場を提供するとともに、絵本の読み聞かせ、親子触れ合い活動、子育て相談やマッサージの講座など、多彩なイベントが開かれております。

また、この6月からは、地域おこし協力隊の方々の努力により、毎月第3土曜日の10時から14時、旧土庄高校跡地のとのたる館で、休日の子育て広場が開催されています。こちらも0歳からおおむね6歳児までが対象となっております。

そこでお伺いします。ぴよぴよルーム、休日の子育て広場の開設により、子育て支援や教育の観点からどのような効果があらわれていますでしょうか。

手ごたえや反響をお聞かせいただければと思います。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

ぴよぴよルームは、土庄こども園内にある「子育て支援室」の別称で、町内の未就園児に遊びの場を提供するとともに、保護者の交流の場としてご利用いただいております。利用対象は、町内在住の0歳から3歳までの未就園児とその保護者で、利用時間は平日の午前9時から午後2時までとなります。本年度は58名が登録、延べ1458名の方にご利用をいただいておりまして、専門の講師によるベビーマッサージ教室、リトミック、音楽療法など、子育てに関するさまざまな講座を開催しています。

次に、休日の子育て広場は、とのたる館3階に整備したユカリノSPACE内の交流スペースを活用し、毎週第3土曜日の午前10時から午後2時まで、利用対象は0歳から6歳児の親子連れとしております。

ぴよぴよルームは保育士が対応しますが、子育て広場には専門の知識を持つスタッフはいないなどの違いはありますが、より気軽に集まって親子連れが

交流できる良さがあるとともに、ぴよぴよルームは平日での開催であり、子育て広場は、第3土曜日のみではありますが、土曜日の開催であるなど、両方の場があることで、同じ年頃のお子さんを持つ親同士の交流や、子育ての不安や悩みの解消などの幅が広がり、子育て支援、家庭での子育て力の向上に資するものと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。すごいですね。1400名も超える方がご利用されているということで、保護者の方から好評を得てるんだなという印象を受けました。

ぴよぴよルームに関しては、私も利用させていただいたんですけども、お父さんの交流の場となる、すてきな場所だなという印象を受けました。

ぴよぴよルームに関しては、子育ての不安が和らいだ、知り合いが少なかったがプライベートでも遊びに誘ってもらえるようになったという声が寄せられています。

休日の子育て広場に関しましても、時間を気にせずに赤ちゃん連れて友達とする遊べる場所として活用されております。

現在、土日にぴよぴよルームは使用されておりませんが、将来的に土日利用することを考えておりますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

即答はできませんが、今後検討していく必要があると考えております。

以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。ぜひ交流の場をたくさん作っていただきたいと思いますので、積極的に検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、次の2点目について質問させていただきます。

保育園や幼稚園の子どもたちが走り回ったり、飛び跳ねて遊んだりするには、少々室内は手狭であり危険がつきまといます。

園児や小学校低学年は、本当によく動き回る年頃であり、元気いっぱいの子どもたちが、自由に体を動かしたりできる場所が必要と考えております。

小豆島町では、子どもたちの運動不足解消や親子の触れ合いづくりを狙いに、

キッズスポーツパーク、略して「KiSPa ! (キスパ)」と呼ばれる屋内遊び場が開設されております。

多い日では参加者の数が 40 名を超えるそうです。

土庄町におきましても同様の取り組みがありますと、親子から喜ばれると考えますが、ご所見をお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 岡本高志君。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

小豆島町のキッズスポーツパーク「KiSPa ! (キスパ)」は、子どもたちが自由に体を動かせる屋内の遊び場として、町内の体育館などを利用しながら、月に 1 度、土日に開催されています。2 年前に、地域おこし協力隊員のアイデアによりスタートし、対象は小学 2 年生以下の子ども、保護者同伴、入場料は 300 円、2 歳未満は無料などのルールで実施されていると伺っております。

雨の日や暑い日でも遊べる良い取り組みだと思いますが、土庄町ではまだ具体的に検討するには至っておりません。

このような屋内遊び場の開設においては、空調設備のある施設と運営スタッフの確保が不可欠ですが、それらにかかる費用面と労力の問題、また、施設の利用調整が可能かどうか、安全性や衛生面の確保をどうするか、さらには民間施設等との役割分担はどうなのかななど、さまざまな課題があることから、まずは町内のニーズの実態把握に努め、持続的に事業を行っていくことができるかどうかの検討が必要であると考えております。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4 番（小川務君）

はい。ありがとうございます。

「KiSPa ! (キスパ)」なんですけども、土庄町の休日の子育て広場と同じようにこちらも地域おこしの協力の方ご尽力で開設されたとのことです。

毎月 1 回、土曜、日曜日の開催で、ボールプールやトランポリンなど、たくさんの遊具が用意されており、保護者の見守る中で、子どもたちを自由に遊ばせることができます。

5 歳くらいの子どもたちが遊ぶスペースと、赤ちゃんが遊ぶスペースが分かれているので、保護者としても安心して見守れる環境となっております。

民間施設とありましたが、民間施設の年齢対象、あるいはその金額の違いは「KiSPa ! (キスパ)」とはありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員の再質問にお答えしいたします。

町内の民間施設が開設する室内子ども遊園地と「KiSPa！（キスパ）」との違いについてですが、どちらも保護者同伴で、対象年齢としましては、マルナカは1歳から中学生まで、民間施設については、1歳から中学生まで、「KiSPa！（キスパ）」は、小学2年生以下の子どもが利用可能です。

入場料については、民間施設の方は、子ども1人につき20分の利用で400円、フリータイムで600円となっております。「KiSPa！（キスパ）」については、300円で2歳未満は無料となっております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。民間施設の方もですが、私は何度か利用させていただきました。

清潔感のある遊具と丁寧なスタッフさんが駐在していて、気持ちよく利用することができました。

一方、先ほど答弁されました利用料に差があるようですが、今後民間施設の利用者に対して、町として一部補助をする考えはありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

民間が運営している施設を利用した場合の利用料の補助についてですが、議員がおっしゃられるように町が屋内遊び場を設置するのではなく、民間の力を借りて、使用料の一部を補助するというのも1つの方法だと考えます。

そうした補助を含め、今後どのようにすれば持続的に事業を行っていけるかどうか、総合的に考えていきたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。こちらもぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

では3点目、「KiSPa！（キスパ）」は体育館などの屋内で開催されておりますので、天候を気にせず遊ぶことのできることが大きなメリットです。特に日差しが強い季節は、小さな子どもたちのスポーツや運動遊びといったシーンで、熱中症が懸念される中で、このような屋内施設は大変有効だと思います。

ここ数年、9月になっても暑い日が続いております。

6月の議会で一般質問でも熱中症対策について質問がありました。

教育関係におきましても、さまざまな取り組みがされていることがわかりましたが、日差しを気にせず、室内で体を起こす動かせる場がより求められていくと思います。

子どもたちの遊び場のあり方につきまして、改めてお考えをお聞かせください。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

近年の夏季の猛暑日が増加する中、屋外での熱中症リスクが高まっていることは、子どもたちの健康を考える上で重要な課題であると思っております。教育委員会といたしましても、日差しを気にせず屋内で体を動かせる場を確保し、年齢や体力に応じた運動機会を提供することは、重要なことであると認識しております。

一方で、体育館等への空調設備の整備には莫大なコストがかかることから、順次整備していくほかなく、今年度は、土庄小学校体育館に整備するための実施設計を行っているところであります。したがいまして、現状としましては、冷風機や大型扇風機を使用して、子どもや大人たちのスポーツ活動に供しているのが実情であります。

こうした中、さらに幅広い年齢層の子どもの遊び場についても、屋内で確保していく必要性が高まっているということについては、十分理解できることであり、教育委員会としましては、土庄小学校に続き、体育施設への空調設備の導入を計画的に進めていきたいと考えております。また、既存の施設につきましても、遊び場として利用できるかどうか、ニーズや管理状況等を勘案しながら検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

土庄学校に取り入れるというふうに、いま行動されてるということなんで、ぜひ隨時、ほかの施設にも広げていっていただきたいなと思います。

近年、全天候型の子どもの遊び場は規模の大小の差はあれ、全国のさまざまな地域で整備が進められております。

特に設置が盛んな山形県です。山形市では、子どもたちがのびのびと遊べる施設が少ないという保護者の要望を受け、2014年に「べにっこひろば」という児

童遊戸施設が整備されています。

大型遊具が充実しており、年齢ごとにエリアが分かれているなど、子どもたちがのびのびと遊べるような配慮もしっかりととなされていることです。

オープン1年目で約30万人が来場するなど、好評なことから市長の公約により、2カ所目の遊戸施設「コバル」が2022年にオープンしています。

また、お隣の天童市も大型遊具を備えた屋内児童遊戸施設などが、各自治体が競い合うように整備を進めています。

背景には、豪雪地帯で、冬場に子どもたちが体を動かす機会が限られるといった事情もあるようです。

私たちが住む瀬戸内地方は、1年を通して降水量が少ない地域ではあります。が、災害級ともいえる夏の猛暑を考えますと、やはり安心して室内で遊べる施設が必要なのではないかと考えております。

次に4点目の質問に入らせていただきたいと思います。

新たに施設をつくるのではなく、既存の公共施設を利活用する例を各地に見られます。

静岡市では廃校となった小学校の期間限定ではありますが、子どもの遊び場を開設、体育館にミニサッカーやストラックアウト、ミニトランポリンなど、体を動かして遊べる空間を市民に提供しています。

広い空間と学校の設備をうまく利活用した例として参考に値するものと考えております。

土庄町におきましても、休日の子育て広場が開催されます旧土庄高校跡地をはじめ、土庄地区から渕崎地区にかけましてさまざまな公共施設が点在しております。

そこでお尋ねします。これらの施設のうち、子どもたちが体を自由に動かせる遊び場として活用できるものはいくつありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

空調設備があり、遊びまわれる十分なスペースがある施設としましては、総合会館が考えられます。児童館4カ所や中央公民館などの活用も考えられますが、スペース的に制限を受けるものになります。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

それでは児童館の4カ所はどちらになりますか。またエアコン等が設置され

ている利活用できる一番広い部屋を持っている児童館はどちらで、大きさはどれぐらいになりますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

住民環境課長 島原正喜君。

○住民環境課長（島原正喜君）

はい。小川議員のご質問にお答えいたします。

土庄町には、渕崎、北浦、大部、豊島の4カ所に児童館があります。

その中で一番大きなスペースというのは、その4館とも遊戯室というが、それぞれの館で大きなスペースとなっておりますが、一番大きなものということでしたら、渕崎児童館の遊戯室が106平米で一番大きい空間になります。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。渕崎児童館の106平米だと、「KiSPa！（キスパ）」がやってるところよりは、ちっちゃいなという印象ですかね。わかりました。

それは総合会館など学校以外の体育館で空調設備がない施設はどちらになりますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

空調設備がない体育館につきましては、戸形、大鐸、大部、土庄、渕崎、北浦、四海、あと旧土庄高校の体育館であります土庄体育館、及びふれとぴあホールの小ホールの9カ所となります。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。それでは通常時だけではなく、災害時のことを考えなければならないと思いますが、今後体育館にエアコンを設置していく予定は考えていますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

体育館への空調設備の導入についてですが、計画的に進めていきたいと考え

ております。

優先度につきましては、利用状況等により考えていくことになりますが、土庄第二体育館、ふれとぴあホールの小ホール等が、優先度が高いと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。わかりました。

それでは設置するのに、何か国の補助金とか活用する考えはありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

国庫補助がございますが、空調設備につきましては、競技スペースに断熱性があることが要件となっておりまして、断熱性のない競技スペースにつきましては、空調設備を設置する際に合わせて、断熱性確保のための工事を行う必要がございます。

なお、令和7年度の補助率につきましては、2分の1となっております。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい。ぜひ2分の1をいただけるんでしたら国を活用して、有効な施設に作っていっていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは最後に、子育て支援と賑わいという観点で質問させていただきます。

高知県佐川町には2023年にオープンした、牧野さんの道の駅佐川には「佐川おもちゃ美術館」という親子向け施設が併設されており、ヒノキの玉が入ったプールや、地元の野山をイメージしたトンネルなど、温かみのある木のおもちゃ観光客を誘致しています。

このように、子育て設備を観光振興に活用する例は、全国で盛んに行われております。

観光の島である小豆島・豊島におきましてこのような手段は有効と考えますが、お考えをお聞かせください。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

子育て施設や屋内遊び場を観光振興に活用することは、地域経済の活性化とともに、子育て支援の充実という社会的価値も両立させる取り組みであると考えられ、悪天候が続くシーズンにも安定して観光機会を提供できる点、それから、家族連れが安全・安心に訪れて滞在時間を延ばすことで地域の消費を喚起できる点、さらには、親子で地域資源を学び体験できる機会を創出する点など、多面的な効果が見込まれるものと推察されます。

しかしながら、生涯学習課長の答弁にもありましたように、屋内遊び場を設置するには、受け入れ環境の整備や運営体制の構築などに加え、国内外の観光客に対応するために、安全性・品質・多言語対応の課題も無視できず、子どもを対象とする施設は、衛生管理・スタッフの教育・設備の安全基準の確保など高い基準を継続的に維持する必要があります。

子どもの遊び場が、天候に左右されず、家族の旅行動機を喚起する持続可能な観光資源として位置づけられるのか、また民間企業との連携など、まずは全国の活用事例などの情報収集や、関係各所との情報共有に努めたいというふうに考えております。よろしくお願ひします。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○4番（小川務君）

はい、最初から100点満点っていうのは無理なんで、10点20点、ちょっとずつでもいいので、そういう方向に向けていただければなと思います。

子どもたちの室内の遊びをについて遊休施設の活用や観光振興も含めまして、さまざまな観点でお伺いさせていただきました。

小豆島に限らず、地方では、人口減少や税収減に悩まされています。行政サービスにおいて、限られたリソースで最大の効果を上げるには、1つの目的に特化するのではなく、一石二鳥可能ならば三鳥、四鳥取るような施策が求められていいくと思います。

屋内遊び場は子育て支援にとどまらず、遊休施設の活用、観光振興など、一石三鳥、四鳥を取れる施設だと考えます。

今後のまちづくりに有効であることを提案しまして、私からの一般質問を終わらせていただきたいと思います。